

短期間で合格する頭脳のつくりかた

①手段・目的転換メソッド

以下のように考えると思考力が深まります。

普段から練習してみよう。

慣れてくると、すぐに作文の主張には使えるようになります。

論説文の理解も深まります。

やるべし！

●手段・目的転換メソッド

人は、あること（手段）を実行して、ある目的をかなえようとします。

例えば、今、みんなは合格を目指して勉強しているよね。

この場合、

勉強する→「手段」。

合格する→「目的」。

でも、合格することの先に、まだ、ものすごくいっぱい、本当の「目的」はあるんじゃないかな？

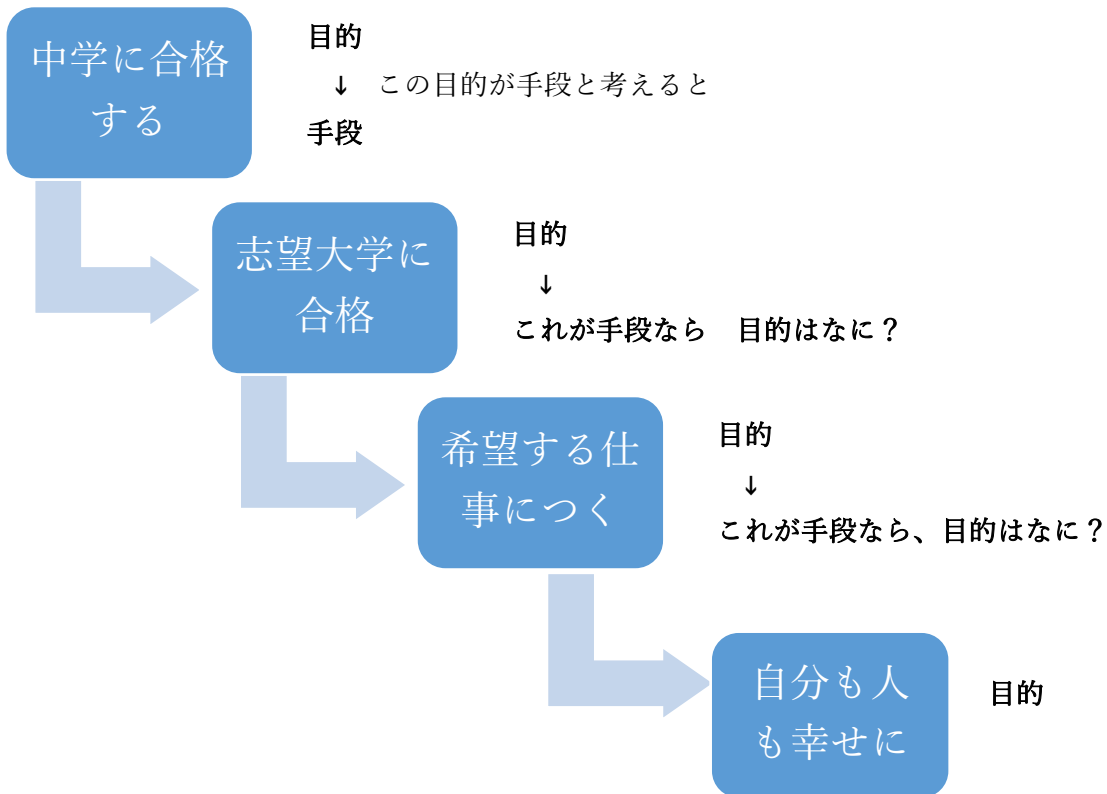
合格する を「目的」ではなく、「手段」に変える（転換）してみよう。

勉強する「手段」 → 中学に合格する「目的」

中学に合格する「手段」 → 志望大学に合格する「目的」

志望大学に合格する「手段」 → 希望する仕事につく「目的」

希望する仕事につく「手段」 → 自分も人も幸せにしたい「目的」



こんなふうに、一見目的と見えるものを次々と手段ととらえると、見える世界が違ってくる。他の受験生が見えていないものが見えてくる。

深い視点を持つためには、普段から深く考えるクセをつけよう。

読書についての自分の主張、意見なら

読書は大切 (当たり前すぎて0点。不合格)

↓

読書が大切なのは多くの人の意見に触れられる (つまらない、だから何なの？ 5点)

↓

多くの人の意見に触れられると、自分の思考力が深まる(思考力が深まると何なの？意味不明！ 10点)

↓

読書で様々な人の生き方に触れると、思考力が深まり自分の考えの間違いに気づき、自分の成長が早まる

(学校の採点者にとって、あなたの成長が早まってなんのメリットがあるかわからない 残念15点)

↓

読書を通して何度も人の人生を生きることができ、様々な人の視点を自分の中に取り入れることができる。その結果、自分の成長が深まるし、他者の考えも心から理解できるようになり、人といい関係が築けるようになる。

(ここで、やっと学校・採点者にとってのメリットがでてきた。35点 ギリギリ合格！)

こうやって、どんどん、深く考える。

(手段) 本を読む→(目的) 読書は大切

こんなの話にならない。

もう、わかるよね。

多分(^-^);

手段と目的をどんどん入れ替えて深掘りしていく。
その深さに応じて、得点は加点される。

読書は大切 (当たり前すぎて0点。不合格)

↓

読書が大切なのは多くの人の意見に触れられる (つまらない、だから何なの? 5点)

↓

多くの人の意見に触れられると、自分の思考力が深まる (思考力が深まると何なの? 意味不明! 10点)

↓

読書で様々な人の生き方に触れると、思考力が深まり自分の考えの間違いに気づき、自分の成長が早まる
(学校の採点者にとって、あなたの成長が早まってなんのメリットがあるかわからない 残念 15点)

↓

読書を通して何度も人の人生を生きることができ、様々な人の視点を自分の中に取り入れることができる。その結果、自分の成長が深まるし、他者の考えも心から理解できるようになり、人といい関係が築けるようになる。
(ここで、やっと学校・採点者にとってのメリットがでてきた。35点 ギリギリ合格!)

■問題

コミュニケーションで大切なことは何か?

目的 一段目

目的 二段目 (上の目的が手段なら、次の目的は何?)

目的 三段目 (上の目的が手段なら、次の目的は何?)

②論説文 タイトル「からの～」メソッド

道を開くの練習はみんなしてるよね。

しれなければ、これからは以下の練習をしよう。

論説文を読むときは、必ずタイトルから先に読むのは、もう常識だよな。

実際のやってみるよ。

●本のページを適当に開いてみる

たまたま開いたページのタイトル。これだけで論説文を作る。

論説文の正体がわかっていればできるはず。

論説文とは、なんだっけ？

論説文とは、

だから、一般論（常識）と著者の意見の対比をベースに文をつくる。

それにプラスして、言い換え（ひゆ、引用、具体例、データ）を使う。

文の構造は PREP を使う。

PREP は OK だよな。

POINT

REASON

EXAMPLE

POINT

たまたま開いたページがP260「ピンとくるなら」

こう考える

「一般の人はこれについてどう考える？」

「一般と違う著者の意見って何？」

実際に考えてみよう。こんな感じね。

「一般の人は、たまたまひらめいたピンとくるアイデアを軽視するんじゃないね。」

「でも、著者のようにすごいやつは、ピンとくるアイデアは、これまでの全人生の蓄積。それは神のひらめきにも等しい。とか考えるんじゃないね。」

もしくは

「一般の人は見る目が浅いから、ある出来事をみてもピンとくることが無い。でも、普段から最大限の努力をしている人は、不思議と同じできごとの中から、ピンとくるものを見つけるものだ。」

みたいな。

とにかく対比で考える。

99%の人の意見と、著者の意見は何が違うのか。

ここを想像することが大切。

どうしても、ピンとこなければ

文章の最初の一行と、最後の一行を見してみる。

見てみよう。

最初の一行

・人間の身体の仕組みは、実に複雑にそして実にたくみにできている。

最後の一行

・お互いに、もう一度思いをめぐらしたい。会社の商店も、そして一番大事な国家についても。

タイトル以外に更に情報が増えるので、著者の意見がもう少しつかみやすくなる。

③作文を書く前に落ちている人 50%のワケ

文を書く前に落ちている人が50%いる。

書いた後に落ちる人は残りの3分の2。

なぜか？

まず、書く前に落ちる人。

理由がいくつかある。

理由：第一位

問題文の条件にしたがっていない。

川崎の場合は、問題文の条件指示にクセがある。

超気を付けないと、かるく落ちる！

対策として

「自分は何か見落としていないか」

常にその視点を持つ！

理由：第二位

書く前に、書くべきことが理解できていない。

①主張が課題文の流れにそっていない。

これは、主張を読み間違えたために起こる。

普段から著者の主張を一言で言える訓練が必須。

著者は

「○○のために（目的）、□□すべきだと述べている（手段）。」

どんなに長い文章でも、これが言える前に文を書き始めては絶対にダメ！

文のタイトルは、たいてい手段。

隠れた目的も見つけ出す訓練をしておこう。

さっきの「ピンとくるなら」

「著者は、上の人、組織が発展するために下の人、もののちょっとした動きにピンときて、そのことの重要性を理解し、機敏に判断、行動できるようにでなければならぬと述べている。」

位のことを考える。

②体験でかくべきことが不明確のまま書いている。

体験を書く前に、抽象的にこれから書くべき内容を説明できないうちは書いてはダメ。

さっきの、

道を開くの「ピンとくる」なら

求められている書くべき内容を抽象的に説明できる？

これが言える前に書いてはダメ。

書くべき内容は、

ある組織で、末端の動きをおろそかに上の人がしたせいで、全体に大きな被害がでた体験を書く。

こういった抽象的なことが言えてはじめて、間違いのない具体的体験を書ける。

例えば、給食委員のとき、4年生の意見を聞かずに失敗した体験。

応援団のとき、クラスのやる気のない仲間になにもしないまま運動会をむかえて失敗した体験。

上記のことができていれば、受かる可能性は増す。

でも、その経験をもとに、同じこと繰り返さない学びを君が手にいれていないなら、採点者はドン引きする。

同じことを繰り返さないためには、問題解決をしたとの証拠が必要。

書き方は、問題解決型作文の原則で書くようにしよう。

どこに問題がある→なぜか→じゃ、どうする

この流れをいつも考える。

これが言えないってことは、また同じミスの可能性もある。だから採点者はいい点をつけがたい。

「ピンとくる」なら

どこ→下の意見を上にあげるシステムがない。相手へのきづかいが足りない。

なぜ→上の立場にいて、全体を正しい方向に向かわせることに意識が向いて、個々の人への配慮が欠けた。

どうする→常に皆の動きをみて行動。意見をくみとるシステムをつくる。

捕捉：作文を書いた後に落ちる残念な人

ここまでのことが書ければ、ある程度、合格の可能性が高い。

でも、最後にツメが甘い人も多い。

最後（通常は第三段落）では、具体的な体験から学んだことを抽象化して、採点者へのプレゼント（学校にとってのメリット）となる、「中学生活でどう使うか」を書ければなおベター（より良い）